

海外農業開発学特論 (2単位)

担当者氏名 渡邊文雄・島田沢彦・鈴木伸治・北中真人

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

開発途上国を対象とした海外農業開発に関する工学的手法による試験・研究や技術開発協力のあり方について、各種事例を交えながらさまざまな知見から解説を加えていく。特に、アフリカ、アジア、南米諸国での事例を紹介しながら、開発途上国の環境条件や文化について理解を深め、持続可能な農業・農村開発や技術協力の計画立案のための技術手法を学ぶ。この科目は、必要に応じてバイリンガル(日本語と英語)で実施する。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

土壌・気象環境 作物生産環境 技術協力 技術移転
研究協力

◆授業の進行等について

	テーマ	内 容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	我が国の ODA と途上国	・ ODA における農業開発技術のあり方	開発途上国における農業・農村開発協力についてさまざまな事例から、途上国にける技術協力に関する計画立案の手法を理解するために、配布された資料を熟読し、予習復習を励行すること。さらに、教員と学生、学生相互の論議を通じて、問題の分析能力を醸成することを指すので、発表・討論に積極的にも参加すること。
2	における農業・農村開発		
3	協力 (第 1~3 週)		
4		・パラグアイの自然環境と農業について	
5	アフリカ・南米における	・ウガンダの稲振興計画について	
6	農業開発の事例 (第 4~	・ジブチの気象・水文・土壌について	
7	9 週)	・ジブチの作物生産環境について	
8		・エチオピアの気象・水文・土壌について	
9		・エチオピアの作物生産環境について	
10	アジアにおける農業開	・アフガニスタンでの農業支援のための研究協力につ	
11	発の事例 (第 10~13 週)	いて	
12		・ GROPWAT を用いた灌漑計画立案と演習	
13		・ 灌漑計画策定と発表	
14	持続可能な農業開発と	・ ODA・NGO による農業技術開発・農業協力	
15	は (第 14~15 週)	・ 持続可能な農業開発についての総合討論	

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名／著者／発行所 (発行年)

各講義内容に応じて適宜、資料を配布する。

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所 (発行年)

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウエイト)

各課題のプレゼンテーション (60 点), 課題レポート (40 点) で評価する。60 点で合格とする。

◆オフィスアワー

授業終了後 1 時間、研究室で質問等を受け付ける。あるいは f-nabe@nodai.ac.jp, shima123@nodai.ac.jp, s4suzuki@nodai.ac.jp, Kitanaka.Makoto@jica.go.jp まで。

◆その他受講上の注意事項